

助産学実習

ナンバリング:N4-S2-L13

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 遊田 由希子 特任教授		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座		
対象学年	4	区分/単位数	実習/8単位
期間	後期		

・学修方針(講義概要等)

妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にある対象者が有する生理的能力を十分に引き出す助産ケアを提供できるよう、その身体的および心理社会的特性を踏まえた助産過程の展開を通じ、基本的な助産診断・技術力を習得する。具体的には、受持ち事例に対する分娩介助を含む分娩期(分娩第1期～第4期)の助産過程の展開と助産ケアの実施および産褥期・新生児期の助産過程の展開と助産ケアの実施を行う。その他、妊娠期における助産ケアの実際についても学ぶとともに、妊娠期から子育て期にわたる継続した助産実践のあり方についても体験的に学修する。

・教育成果(アウトカム)

妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にある対象者の正常経過を理解するとともに、心身の特性を踏まえた助産過程の展開を行い、基本的な助産診断方法と助産技術を習得することができる。また、母親や家族に対する健康支援の必要性をアセスメントし、留意点や重要点を理解した上で実施する。	
【学位授与方針と当該授業科目との関連】 本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。	
1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
6	災害等の危機的状況においてもできるかぎり平常時と同様のケアを提供できるような構想力を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 妊娠から産褥、1か月健診までの母親および胎児・新生児の正常な経過を理解し、個々人の健康状態に応じて助産過程を展開できる
2. 安全および安楽を確保した分娩介助を指導者のものに実施できる
3. 妊産婦の多様な価値観、信条を尊重し、その人の意思決定を支援することにより、信頼関係を形成し必要なコミュニケーションを展開できる
4. 根拠に基づいた看護を提供するための理論的知識を活用することで適切な助産ケアを展開できる
5. 妊産婦とその家族の身体的、精神的な健康状態をアセスメントし必要な助産ケアができる
6. 妊娠期から産褥期における母親や家族に対する健康支援の留意点や重要点を理解した上で実際に支援ができる
7. 搬送、母体および胎児または新生児の急変時の対応や災害など危機的状況下の助産師の対応を説明できる
8. 妊娠期から育児期を通しての助産師の役割について述べる事ができる

・実習日程

日程	7月22日(火)～9月26日(金)*うち8週間
担当教員	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授 遊田 由希子 特任教授 西里 真澄 講師 高橋 淳美 講師
授業内容/到達目標	【授業内容】 ・妊娠から産褥、1か月健診までの母親および胎児・新生児とその家族のアセスメント ・分娩期における助産診断と助産ケア ・褥婦と新生児の助産診断と助産ケア ・妊婦健診 ・2週間健診、産後1か月健診 ・搬送、母子の急変時の対応、災害時など危機的状況時の助産ケアの実際 ・産後ケアの実際 * 詳細は実習要項に記載する 【関連するSBO】1.2.3.4.5.6.7.8 【事前学修:1日あたり75分】実習に必要な知識と技術の確認 【事後学修:1日あたり75分】受け持ち事例(約10例)の記録と自己の振り返りの学修

・教科書・参考書等

		教:教科書	参:参考書	推:推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ【1】妊娠期 第6版	我部山キヨ子	医学書院	2021
教	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ【2】分娩期・産褥期 第6版	我部山キヨ子	医学書院	2021
教	助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ【3】新生児期・乳幼児期 第6版	石井邦子	医学書院	2021
教	日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト第4版	細野 茂春	メディカルビュー社	2021
教	根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版	石村由利子	医学書院	2020
参	産婦人科診療ガイドライン産科編2023	日本産婦人科学会		2023
参	助産業務ガイドライン 2024 (PDF版)	日本助産師会出版		2024
参	胎児心拍数陣痛図の判読と解釈・対応	日本産婦人科医会		2023
参	母子健康手帳	岩手県健康福祉部	吉田印刷	2025
参	病気がみえる vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア	2018

・成績評価方法

【総括的評価】 実習要項に記載している実習評価表に基づき評価する
【形成的評価】 面談や記録物などにより学修成果を確認する

・特記事項・その他

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 記載途中あるいは提出された記録と、中間、最終での技術チェックシート、分娩介助評価表は適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 助産師(別表2):臨地実習 助産学実習
【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有 医療機関で助産師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する			